

2023年11月8日

京都府知事 西脇隆俊様

北山エリアの将来を考える会
京都府立植物園を守る会
京都府立植物園整備計画の見直しを求める会
(なからぎの森の会)
植物園の環境と景観を守る北区の会
北山エリアを考える府大関係者の会

要望

京都府政への日々のご尽力を感謝いたします。以下要望いたします。

I アリーナ建設について

京都府は8月3日と9月6日に「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」を開催され、問題になってきたアリーナの建設について、その場所や規模の検討を始められました。さらに、あり方懇話会は8月25日に、アリーナの建設の候補地となっている京都府立大学下鴨キャンパスと、向日町競輪場の現地視察を行っておられます。

また10月19日には「府体育館主要競技団体協議会」が、向日町競輪場内に1万人規模のアリーナを建設することを求める要望書を提出されました。

私たちはこの急な動きに対して、以下のように考え要望いたします。

- ① 京都府立大学構内に巨大アリーナを建設する計画は中止し、老朽化した体育館や校舎を、2000人の学生規模にあった施設として急ぎ建て直していただきたい。このままでは、学生たちの生命の危険さえもあり、知事の責任が問われています。
- ② 大きな屋内体育施設(アリーナ)が必要ならば、京都府内の他の適切な場所に建設することを求めます。その際、アリーナの規模(収容人数)や設備、管理運営については、予算や採算性を十分に考慮されることが求められています。
- ③ 7月には京都市が西京極運動場の再開発についてサウンディング調査(民間事業者の提案募集)を提起しているように、西京極でさえも採算が取れていないことが分かっています。アリーナ建設の候補地は府や市の既存施設・所有地や民間所有の施設を含めて、競技団体、府民・市民の十分な合意を取って進めていただきたい。

II 府立植物園について(3月9日の申し入れの確認)

今年2月20日に京都府・植物園による「植物園整備に向けた施設の具体的な方向性」が出されました。私たちはこの「方向性」について高く評価するとともに、幾つかの危惧の念を持っております。

詳細は本年3月9日に申し入れたとおりです。具体的には、温室をはじめとする施設の充実の検討、植物園会館の拡大の見直しとともに、専門職の職員の採用、関係予算の増大を希望いたします。

また、今後この「方向性」を精査され、府民の声もよく聞かれて、創立100年記念を迎える府立植物園が「生きた植物の博物館」として維持・発展されることを切望いたします。

Ⅲ 府立総合資料館跡地について(5月19日の申し入れの確認と追加)

2023(令和5年)度の京都府の予算では、旧府立総合資料館の建物の解体および跡地の整備について約3億円が組まれております。この解体・整備作業による、騒音・ばい煙・交通渋滞・緑地の減少など居住環境の悪化について大変心配しております。また、跡地の利用につきましても、以下のような要望を持っております。

- ① 解体・整備の計画についての住民説明会を開催してください。
- ② 解体・整備後の土地利用の在り方について、住民との懇談(仮称:住民懇話会の設置)の機会を設けてください。
- ③ 解体・整備に当たっては、地域内の樹木草花を極力残し、東北部は公園化していただきたい。
- ④ 緊急の要望として、総合資料館跡地の周りの市営地下鉄1番出口の周辺や下鴨中通および北山通の歩道部分やオープンスペース部分は、フラワーポット・車止めの鎖や置石などが錯綜し、かなり狭く込み入っております。解体・整備工事に伴い、この場所の安全・効率的な拡幅と整備をしてください。
- ⑤ この跡地の恒久的な整備の際には、地下鉄北山駅の東側にもエレベーターを設置してください。近隣には、障がい者施設もあり、バリアフリーの観点からも設置が望まれています。
- ⑥ 総合資料館跡地の北側にある生垣のカイツカイブキが歩道側にはみ出して通りにくくなっており、急ぎ剪定をしてください。